

〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 。

水環境ニュースレター by RECWET 第 21 号 2023.10.18(水)

。。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇。 〇〇

日本水道新聞社の「[ショートエッセイ水](#)」には、様々な業界から短いストーリーが毎月掲載されていて、ちょっとした読み物に最適です。それではご協力いただいた本学研究者の水に関する情報をご紹介します。

水環境工学研究センター（RECWET）の活動

【令和 5 年度第 1 回運営委員会実施】10 月 13 日

委員の先生方にお集まりいただき運営委員会を開催しました。今年度より加藤泰浩 前工学系研究科副研究科長（現・研究科長）に代わり石田哲也 副研究科長（社会基盤学）が運営委員を引き受けてくださっています。

今年度は第 4 期（2019 年度から 5 年間）の最終年度となることから、センターの設置期間更新審査の方針に関してご意見いただいたほか、今年度の活動や予算執行についてご審議いただきました。

【2021-2022 年報発行】10 月 10 日

「水環境工学研究センター年報 2021-2022 年度」の印刷物が仕上がり、学内外の関係者、約 170 名の先生方に配布中です。[2023 年業績](#)（随時追加）、[過去の年報](#)もウェブに掲載しておりますので、合わせてご覧いただければ幸いです。



【客員研究者の受入れ終了】8 月下旬

6 月に渡る客員研究者 2 名の研究受入れがそれぞれ終了しました。ろ過膜技術に関する共同研究をトリノ工科大学 Alberto Tiraferri 准教授と、流域水システム・水環境に関する研究交流を台湾・逢甲大学 Chia-Ling Chang 教授と、それぞれ実施しました。

RECWET メンバーの活動

【APAC2023 で要職に 田島芳満教授（水システム管理部門）】

土木学会海岸工学委員会主催 [11th International Conference on Asian and Pacific Coasts](#)（11 月 14-17 日）で運営委員、開催国組織委員、[Proceedings エディター](#)に

【国際会議で招待講演 栗栖太教授（水システム管理部門）】

参加者数 2,000 人規模の 9th IWA-ASPIRE Conference & Exhibition 2023 で[招待講演](#)（10 月 25 日、Taiwan）

【2大プロジェクト共同研究の成果発表他 加藤隆史教授（副センター長）】

- 科研費新学術領域研究「水圏機能材料」（領域代表：同教授）が、日本化学会秋季事業 [第13回CSJ化学フェスタ2023](#) にて2つの公開コラボレーション企画を開催（10月18-19日）
- スメクチック相を形成するイオン性液晶分子を基盤とした2Dナノ構造水処理膜に関する[論文発行](#)。水圏機能材料とJST-CRESTコロナ基盤研究課題（研究代表：片山浩之教授）による共同研究の成果（8月24日）

【懸念される水道管更新について情報提供他 滝沢智教授（センター長）】

- NHKニュース「おはよう日本」の特集「災害で断水・浄水場の浸水対策・飲み水をどう守る？」に取材協力（[10月12日放映](#)）
- インタビュー記事「[人手不足で水道管の更新がペースダウン 老朽化で漏水増加の懸念](#)」が朝日新聞（デジタル9月21日、紙媒体9月25日）に掲載

【処理施設の開発・管理に有益他 珠坪一晃教授（国際水環境部門）】

- 生活排水中の代表的な病原性細菌の存在量と水質との関係、処理施設での除去特性を日・泰で調査した[論文発行](#)（9月28日）
- 環境浄化微生物の系統、機能を評価するための内部標準遺伝子を用いる解析手法に関する[論文発行](#)（7月18日: Early View）

【全国展開を目指す下水サーベイランス他 片山浩之教授（水質制御技術・素材部門）】

- 下水中の新型コロナウイルス調査を実施する[札幌市・小松市・養父市](#)と研究者らが「全国下水サーベイランス推進協議会」を8月25日設立（会長：同教授）。写真報道：[NHK北海道](#) [中日新聞](#) [環境新聞](#)
- エンベロープ・非エンベロープウイルスへの紫外線発光ダイオード照射に関する[論文発行](#)（Dr. Canh, Dr. Yasui, 鳥居将太郎助教¹, 小熊久美子准教授¹, 同教授）9月1日
- 飲料水処理に関連する条件下でのウイルス不活性化に関する[論文発行](#)（Dr. Canh, 鳥居助教, Dr. Tippawan S.², 同教授）9月1日

1 都市/協力教員 2 センター特任研究員

【センター特任研究員の活動】

- Dr. Tippawan SINGHOPON：[IWA-ASPIRE 2023](#)（10月22-26日、Taiwan）で口頭発表
- 新福優太博士：[IWA MEWE23 conference](#)（9月10-14日、Brisbane）、[環境科学会2023年会](#)（9月7日、神戸大学）でポスター発表
- Dr. Cecilia BURZIO：10月1日付着任（責任教員：橋本崇史准教授）。研究課題「連続監視と網羅分析による水質事故の検知・対策手法の開発と流域モニタリングの最適化」に従事

学内関連講座の活動

【下水道システムイノベーション研究室（寄付講座）】

- ファム・ビエット・ズン特任助教が[下水処理水による鰻飼育の食味試験\(PDF\)](#)実施。[研究室HP](#)に掲載
- 加藤裕之特任准教授が月刊下水道10月号に「[下水汚泥が食・エネルギー・人の新たな循環を生む](#)」

(PDF)」投稿

■ 同特任准教授が「東日本大震災における下水道施設の被害と現地支援」について執筆した「都市防災ハンドブック(青山俊樹・監修)」が株式会社 NTS より発刊 (9月1日)

イベント・プロジェクトのピックアップ！

【一般の方向けイベント 木津用水まつり】10月21、22日

3年目の取り組みを開始した水循環研究プロジェクト [VESPa](#) (研究代表：乃田啓吾准教授/農学生命) が研究対象である同用水の地元、小牧市と春日井市それぞれの市民まつりで水の流れがわかる体験イベントを開催。

[VESPa 活動最新情報](#) [まつりチラシ](#) (PDF、JST-RISTEX サイト)



【水道研究発表会で特別ワークショップ併催】10月18日

水分野の産官学メンバーで構成される「社会変化と水インフラ研究会」(通称 Water5.0) が、「変わっていく社会とこれからの水インフラ」ワークショップを開催。[春日郁朗](#)准教授(先端研/協力教員)が司会、[橋本崇史](#)准教授(水質制御技術・素材部門)がパネリストとして登壇。

【第26回日本水環境学会シンポジウム】9月20-21日

■ [片山浩之](#)教授が水中の健康関連微生物研究委員会委員長、[中島典之](#)教授¹が流域物質動態とノンポイントソース研究委員会副委員長、[山室真澄](#)教授(新領域)が汽水域研究委員会幹事長として、それぞれ幹事の先生方と協力してセッションを企画・開催。

■ 口頭発表は以下のとおり(氏名は本学教員・院生のみ)

[栗栖太](#)教授・[春日郁朗](#)准教授ら／[飛野智宏](#)准教授²／[Patthranit K.](#)・[飛野](#)准教授・[中島](#)教授／[珠坪一晃](#)教授ら／[小熊久美子](#)准教授²／[片山](#)教授ら

■ [安井碧](#)博士(本学博士課程修了、主査：[片山](#)教授、現・京都大学助教)が[博士研究奨励賞受賞プログラム](#) (PDF)

¹ 環境安全研究センター／協力教員、² 都市工学／協力教員

【Climate Tech Day 2023 動画公開】8月29日

6月末に同イベントを開催した東京大学 FoundX が各セッションを YouTube 公開。[気候適応セッション](#)では[川崎昭如](#)教授(未来ビジョン研究センター)が水と農業に着目して登壇。

その他ピックアップ！学内水環境関連ニュースヘッドライン

【特集<水>を考える [蔵治光一郎](#)教授(演習林) + [福永真弓](#)准教授(新領域)】10月26日
[両教授が巻頭討議](#) 様々な領域から水を治め共に生きることを問う[現代思想](#) 11月号

【映画「鯨のレストラン」出演 [八木信行](#)教授(農学生命)】10月6日
同映画監督への[インタビュー記事](#)(p.3)：同教授はストーリー展開に影響を与え観客からも高評価

【水文・水資源学会会長より 沖大幹教授（総長特別参与/社会基盤）】9月30日

[巻頭言](#)(PDF, 全8頁)一般公開。『水文学発展の経緯、現状の課題や今後の展望のみならず、日本の学会をめぐる諸問題、学問と社会のあり方などについて、他の分野にも通ずるところがあるのでは』

【農業農村のデジタル化 溝口勝教授（農学生命）】9月25日他

同教授の[国際情報農学研 HP](#)では「開発途上国における農業農村開発とDX」などデジタル技術活用に関する掲載誌・講演資料を公開

【微生物の力で下水道の未来に挑む 佐藤弘泰教授（新領域/協力教員）】9月6日

広報誌「創成」特集監修者が研究者になるまで：[水特集](#)(PDF)を監修した同教授へ[インタビュー](#)

【学会誌水土の知 Cover Story 乃田啓吾准教授】9月号

長良川流域で激減した漁獲量改善のために改修された[栗巣川魚道](#)について、同准教授らが[解説](#)(PDF)

最後に

最後までご覧いただき誠にありがとうございました。

水環境等に関するイベントや、プロジェクトをご紹介ください。また、本ニュースレターにて学内研究者・関係者にお知らせしたい情報がありましたら、ぜひご連絡ください。

次回の配信は2023年12月を予定しております。「水」のセンターなので、配信日は水曜日です！

▼当ニュースレターのバックナンバー

<http://www.recwet.t.u-tokyo.ac.jp/details/newsletter.html>

工学系研究科 附属水環境工学研究センター（RECWET）

連絡先：古正裕紀 sec-recwet@env.t.u-tokyo.ac.jp

新規ご購入・配信停止はメールにて承ります。